第６学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　６年１組教室　指導者　神田　俊介

１　主題名　　れいぎ正しさ（B礼儀）

（教材名：人間をつくる道―剣道―　出典：生きる力６【日本文教出版】）

２　目　標

形だけではなく、相手を大切に思う心が伴ってこそ人間としての「礼儀正しい振る舞い」になることに気付き、礼儀正しく真心をもって相手に接しようとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「礼儀正しさ」とは時と場をわきまえながら、真心をもって接したり、相手を思いやる敬意を表したりしようとする心である。しかし、現代の日本では、心が伴わない形式的な礼儀である「虚礼」となってしまう場が増加していたり、社会情勢の変化とともに、礼儀のＴＰＯも少しずつ変化したりしている。新型コロナウイルスのまん延やＳＮＳの普及などを経て、対面でのコミュニケーション能力向上や礼節への意識が高まりづらい社会風潮になりつつある。しかし、人間関係は一人では成立しない。相手に対する敬意をもって心を開き、人間関係をつないでいこうとするうえで、礼儀は必要不可欠である。互いに警戒心を解き、一人の人間として大切に思い、接していこうとするためには形だけではなく、心が伴ってこそ、互いが気持ちのよい、人間としての「礼儀正しい振る舞い」になることに気付き、礼儀正しく真心をもって接しようとする態度が必要であることについて考えるようにしたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、男女の仲もよく、休み時間には運動場へ駆け出して遊んだり、教室でカードゲームや談笑をしたりする姿が見られる。また、初対面の相手に対しても人見知りせず、気さくに話しかける姿も多くみられる。しかし、時に、相手の立場や年齢、状況などを踏まえず、他人から見られる自分の態度や言葉遣いを意識せずに行動することもあり、相手に対して失礼となってしまうことがある。この教材を通して、相手のことを大切に思うが故に、それをどのように表していくかを考え、心と形の両方が伴ってこそ、相手を尊重し、真心のこもった礼儀となることを理解できるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材では、日本に古くから伝わる「武道」をテーマに、技術だけではなく、礼儀・作法を学ぶことを重んじている登場人物の姿から、「誰に対しての礼儀なのか」や、「どのような意味が込められているのか」などについて考えることができる。
・試合後にふてくされた態度で試合から引き上げる主人公の姿から、どうして形だけの礼儀ではいけないのかを考えさせたい。また、「礼儀を尽くす」ことは相手あっての考えであり、相手を一人の人間として受け止め、大切に接しようとすることの大切さを考えることができる。

〈こんな手だてで〉

・剣道において、試合の勝ち負け以上に大切な礼儀のわけ礼儀は相手を尊重し、全力で試合ができたことに感謝する現れであり、しかも心と形が伴ってこそ、相手にも周りにも伝わることを話し合い、相手と接するときの礼儀の大切さに気付くことができるようにする。
・「人間をつくる道」について考える主人公の姿を踏まえて考えることで、相手を敬い、尊敬する心が大切であることに気付かせ、大人の試合から感じられたすがすがしさは、礼儀正しい振る舞いによって与えられたものであると気付くことができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・接する相手や、時と場をわきまえて、適切な言動をとり、礼儀正しく真心のこもった行動を進んでとろうとする意欲を高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず、導入で「礼儀正しさ」について問う。ここでは、丁寧な言葉遣いや動作などが「礼儀正しいこと」であり、展開部分で、そのような言動を取りたいという思いはどこからくるのかを考える動機づけとする。その後、教材を読み、登場人物や物語の内容などを把握できたら、めあてを提示する。

展開部分では、厳しい練習に耐え、やっとの思いで迎えた試合に勝てず、先生から厳しい言葉を掛けられた「ぼく」の様子から、「剣道の腕前」と直接関係していない礼儀をなぜここまで重んじているのかについて考えていく。その際、「ぼく」と「大人」の試合の様子を比較しながら考えることで、礼儀が自分の目の前にいる相手を「認め、受け入れ、大切にしたい」という思いの表れであり、勝ち負け以上に大切にされている、尊重しなくてはならない考えであることに気付けるようにしたい。中心発問では、「人間をつくる道」という言葉を聴いた「ぼく」の思いについて考え、話し合う。形だけ、見せかけだけの「虚礼」ではなく、「相手のことを思い、大切にしたい」という自分の気持ちの表れこそが礼儀であることを対話の中で押さえていく。その後、本時での学びを振り返り、言葉遣いや行動など、「形」ばかりの礼儀を考えていた導入段階から、授業を通して、「相手を思う気持ち」の表れこそが礼儀であり、形ばかりの「虚礼」では意味がないと、児童の思いが広まり、深まったことを感じられるようにする。

終末では今日学んだことを振り返り、今後の生活に生かそうとする意欲を高めたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、プロジェクター、スクリーン、タブレット端末

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　「礼儀正しさ」について考える。（3）	「礼儀正しい」とは、どのようなことなのだろう			
	・挨拶がしっかりできること。 ・返事が大きな声で言えること。	・相手を見て反応ができること。 ・自分から丁寧な行動ができること。	・いろんな場面で、そこに合った行動ができたり、相手を気遣ったりできること。	※児童の身の回りや具体的な場面を想起できる問い掛けをすることで、場面によって接し方を変えていることに気付くようにする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　形だけではない「礼ぎ」とは、どのようなことなのだろう			
	・どんなときも変わらずにできる礼儀。	・どんな相手でも丁寧に接することができる。	・時と場合関係なく、相手のことを考えた発言や行動ができること。	
3　教材文を読む。（4） 4　「礼」に対する主人公の思いを考える。（4）	厳しい稽古の中、「ぼく」は礼に対してどのように思っていたのだろう			
	・どうしてこんなことをしないといけないのだろう。	・関係ない事だけど、先生に怒られたくないからやらないと。	・礼をすることが大切なのは分かるけど、どうしてここが一番大事なのかな。	※剣道への憧れが強く、礼に対しては消極的な主人公の感情に着目すろことで、礼をすることが必要な理由について考えられるようにする。
5　大人の試合を見た後の「ぼく」の気持ちの変化について考える。（8）	大人の試合の様子を見て、「ぼく」はどのような気持ちになったのだろう			
	・大人の試合はすごいな。 ・しっかり試合後の挨拶ができていてかっこいい。	・負けて悔しいはずなのに、どうしてあんなにりっぱな様子なのだろう。	・先生はこれを伝えたかったのかな。自分の行動は恥ずかしいものだったんだ。	※「ぼく」の感情から表出された行動が、その場に適していないことを全体に投げかけ、「礼儀正しくすること」が何なのかについて考える足掛かりをつくる。 ※「ぼく」に欠けている礼儀に気付くために、「ぼく」と大人の試合の後の様子を板書で比較する。
6　「礼」に対する「ぼく」の新たな考え方について聴き合いながら考える。（15）	「人間をつくる道…か」と言う「ぼく」はどんなことに気付き始めていたのだろう			
	・負けたときに、「自分が悔しい」ことしか考えていなかった。 ・いつか剣道の腕前だけじゃなく、挨拶などの礼儀もしっかりできるようになりたい。 ・相手のことをよく考えて行動していかないといけない。	・剣道を強くなっていくためには、まずは自分の弱い心と向き合っていかないといけない。 ・礼をすることは相手に自分の思いや気持ちを伝えるための行動なのかもしれない。 ・礼儀ができていないことは、人として恥ずかしいことだ。	・剣道で一人前になるためには、技術を磨くだけではなく、人としての心構えや、周りの人への感謝や尊敬の気持ちをもたないといけないのかな。 ・相手を大切にしている」という思いが伝わるような礼儀ある行動をしないといけないんだ。 ・見た目だけの礼だけでは意味がない。中身を大切にしたい。	※教師が「みんなから礼儀正しく見えるような振る舞いを続けていればいいってこと？」と問いかけ、形だけの「虚礼」では意味がなく、常に相手を意識した「礼儀正しさ」を表していくことが大切であることに気付けるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「人として恥ずかしい」 「相手のこと」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「礼を丁寧にすることには、どんな思いが込められているのだろうか」 「みんなから礼儀正しく見えるような振る舞いができればいいのかな」
7　めあてに戻って考える。（5）	形だけではない「礼ぎ」とは、どのようなことなのだろう			
	・相手のことを考えた態度をとることが大切なんだ。	・相手や場面で変わることのない思いやりの心だと思う。	・相手への真心をもって、丁寧な言葉や行動をしようとすること。	
8　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・礼儀を大切にすると自分も相手もいい気持ちで生活できる。	・相手のことを思うと、自然と礼儀を大切にしようと思えるようになると思う。	・「相手のことを大切にしている」という思いが伝わるような礼儀ある行動をしていきたい。	※書くことに悩んでいる児童に対しては、板書の内容やキーワードとなる言葉を確認するように声掛けする。

（4）評　価

・相手を敬い、形だけではなく、心が伴った礼儀ある行動を実践し、継続しようという思いを表現しようとしているか。　（発言・ノート）